

# 研究結果報告書

## ベトナム・日本の古代都城の比較研究：宮城の中枢空間を中心にして

所属：ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学 東洋学部

役職：講師

氏名：ファム・レ・フイ

漢代以降、中国の歴代王朝はいずれも三皇五帝の政治を理念とする支配体制の構築を目指した。都城は、王朝が志向する政治理念を視覚的に具現化するものとして設計・建設された。

同じ「中華文明圏」にある日本やベトナムの各王朝は、中国から政治体制や文化を吸収するとともに、同時に政治理念やその都城への表現も自国の都城制に採り入れた。そのため、両国の都城制を考える際に、個別の宮殿や建造物の設計構想となった政治理念を見極め、その特徴を中国の歴代王朝の都城制に比較してみれば中国のどの時代の制度・都城モデルが考案されたのかという問題や両国の都城制の独自性を解明することが可能である。

その新しい方法論に立脚した本研究では日本古代の前期難波宮とベトナム李朝期の昇龍京（1029年）の比較研究を行い、下記の共通点やその意味を明らかにした。

第一に両者とも「朝」という中枢部の儀式の場に箱と鐘が設置された。政治に不満をもつ民は、箱に投書することや、鐘を鳴らすことにより為政者に訴えることができる。この共通点があったのは、両者とも先秦時代に中国で発祥した「招諫」という政治理念を都城の設計に取り入れたからである。中国の歴代王朝は「招諫」理念を具現化するために鐘、鼓、旗、箱など様々な器具を導入したのだが、「鐘」を器具として選んだ前期難波宮及び李朝期の昇龍京の設計は、梁を中心に南朝の建康から影響を受けたということを指摘した。

第二に、前期難波宮及び昇龍京が設計される際に東西に三つの殿堂を並べる（もしくは、殿堂が並ぶ）という正殿空間の設計が採用された。前期難波宮のいわゆる「正殿・東西長殿」は中国の魏晋南北朝の「正殿・東西堂」の系譜を引いたと岸俊男氏によって指摘されたのだが、本研究では岸説を批判した意見を再検討し、岸説の妥当性を裏付けた上で、南朝からの影響を強調した。また、李朝期の昇龍京においても「正殿・東西殿」の設計が試行されたことも明らかにし、それも南朝の都城制から影響を受けたという見解を示した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

Ý tưởng thiết kế Cung đô Nhật Bản thế kỷ VII và Kinh đô Thăng Long thời Lý - Nhìn từ thiết kế treo chuông đặt hòm ở khu vực trung tâm [中枢部における「懸鐘」・「設置」の設計からみた日本古代の宮都及びベトナム李朝期の昇龍京の設計構想] (国際シンポジウム「昇龍遺跡からみる世界遺産の遺跡保存・価値発揮」、ハノイ、2015年11月23日) (日越二カ国語発表)

Ý tưởng thiết kế Cung đô Nhật Bản thế kỷ VII và Kinh đô Thăng Long thời Lý - Nhìn từ tư tưởng “Tam triều Ngũ môn” của Chu Lễ và Lễ Ký [『周礼』と『礼記』の「三朝五門制」からみる日本の前期難波宮及びベトナムの李朝期の昇龍京の設計構想] (国際シンポジウム「Tiếp cận liên ngành trong Nghiên cứu Lịch sử đô thị Việt Nam [ベトナムにおける都市史の学際的研究]」、ハノイ、2015年9月30日)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

Ý tưởng thiết kế Cung đô Nhật Bản thế kỷ VII và Kinh đô Thăng Long thời Lý - Nhìn từ Tư tưởng Chiêu gián và Thiết kế kinh đô của các vương triều Trung Quốc [中国の「招諫」理念及び歴代王朝の都城制からみた日本古代の宮都及びベトナム李朝期の昇龍京の設計構想] (『Tập chí Khoa học Xã hội và Nhân văn [人文社会科学雑誌]』8号、2016年(印刷中))

同上の日本語論文は現在日本の研究雑誌に投稿中。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)